

創立百十周年の伝統

本校は、1903年(明治36年)10月1日に開校し、今年で110周年を迎えます。

開校は当時の熊本市助役を退職された佐々布遠先生を「校主」(理事長)とし、また尚綱女学校(現在の尚綱中学高等学校)の校長を務めておられた内藤儀十郎先生を校長としてお迎えして始まりました。

当時の尚綱女学校からも数名の先生に授業をお願いしていたようです。国語・習字・地理・歴史・数学・珠算・体操・修身(今の道徳)に加えて、裁縫・刺繍・手芸・家事・礼儀作法などを身につけ、社会に貢献し、女性の地位向上をめざす「良妻賢母」の建学の精神のもと、「坪井女子工芸学校」という校名でスタートしました。

創立100周年を契機に、男女共学とし「高志躬行」を校訓と掲げ、普通科(共学)、総合ビジネス科(女子)、看護学科(5年一貫教育・共学)を有する私立学校として熊本市の中心部に位置しています。

現在、1か月後の文化祭「加寿美祭」の初日に、学園創立110周年式典と韓国論山女子商業高校との姉妹校交流30周年の式典を同時に開催する予定で準備を進めています。

今年110周年を迎えるにあたり、新たな気持ちでこの伝統ある、熊本中央高等学校のさらなる飛躍をめざして教職員と共に努力、精進してまいります。



創立者、佐々布遠先生の銅像



私立坪井女子工芸学校第1回卒業(明治38年)



戴帽式に向けて

10月26日(土)に、看護科2年生の戴帽式が行われます。戴帽式を控えた今の気持ちを2名の生徒に語ってもらいました。

私は看護科に入って「協力」「助け合い」という言葉を大切に、たくさんのことを学んできました。1年生の頃は勉強が苦手で、テスト前でもやる気がでず、真剣に勉強に取り組むことができませんでした。しかし、友人が勉強している姿を見たり、「一緒に勉強しよう」と声をかけてくれたおかげで、頑張ろうという気持ちが芽生えました。また、勉強をするうちにライバルができ、「今度こそ勝ちたい」といつの間にか思うようになっていました。そして、看護師になるには日々の積み重ねが大切だと思い、自宅での学習も充実したものにしようと頑張りました。

今は、昨年の先輩方と同じ戴帽式という舞台に立つことに緊張しています。先輩方は堂々とされており、背中が大きく、たくましく見えました。私も先輩方のようになりたいと思い、この一年間頑張ってきました。しかし、戴帽式は看護師になるための通過点なので、これからはたくさんの知識を身につけていきたいです。

また、私はこれまでたくさん悩み、涙を流すこともありましたが、そのような時、保健室に行くとき養護教諭の先生が優しく話を聞いてくれ、先生が笑ってくれるだけでリラックスできました。私にとって保健室はとても居心地のよい空間でした。その先生の影響で、私も悩んでいる子どもの心の支えとなり、より近くで見守りたいという気持ちが増し、今では養護教諭を目指すようになりました。養護教諭になることができれば、誰もが安心できる保健室にしたいです。そのためにも、いろいろな経験をして成長できるように頑張りたいです。

(生目南中出身 平岡こすも)

本校の看護科では、戴帽式に参加するためには「戴帽試験」という2学期が始まってすぐに実施されるテストに合格しなければなりません。しかし、私は夏休みにチャアリーディングの全国大会が控えていたので、戴帽試験の勉強は後回しになってしまいました。しかし、勉強しなければならないという意識はずっとあったのでチャの練習が終わってから勉強するなど、時間を見つけて計画的に取り組みました。なかなか頭にはいらず悔しい思いもしましたが、あきらめず地道に勉強したおかげで戴帽試験に合格することができ、ほっとしました。

私は中学3年生のときに、初めて戴帽式を見てとても感動したのを今でも覚えています。憧れの戴帽式に自分が参加できるなんて夢のようです。しかし、ここまでくることができたのもいつも側にいてくれて共に頑張ってきた仲間や、支えてくれた家族や先生方のおかげです。戴帽式ではこれまでの感謝の気持ちを伝えるためにも、感動を与えられるような素晴らしい式にしたいです。

しかし戴帽式がゴールではなく、ここからがスタートです。12月からは初めての実習が始まります。これからは看護師になるという一つの夢に向かって頑張ります。

(長嶺中出身 生田美咲)

トピックス

倒れていた中学生を介抱

本校の生徒が、登校中に倒れていた中学生を介抱したというお礼のお電話をいただきました。該当の生徒を探したところ、2年生の佐藤将君だと分かりました。その時の状況を本人に聞きました。

私は登校しているときに、中学生が倒れているのに気づきました。私は、すぐに介抱し、その中学生が通っている学校まで背負って連れて行きました。

後日、その中学生の保護者の方からお礼のお電話を頂きました。私は、中学生を助けたことに対して、特別なことをしたとは思っていませんでしたが、人の役に立てたことに喜びを感じました。

しかし、中学生が倒れていたときに気になったことがあります。それは、周りにいた人たちが誰も助けようとしなくて、無関心に通りすぎていたことです。私は、腹がたつと同時に悲しい気持ちになりました。

私は将来消防士になりたいと思っています。消防士になっても「あたり前のこととして人を助ける」という今の気持ちを忘れずにいたい。また、困っている人がいたら見て見ぬふりをせず、手を差し伸べることがあたり前の社会にしていきたいと思いました。

(蘇陽中出身 佐藤将)

♪第8音楽隊ふれあいコンサート♪

9月23日に音楽隊後援会発足10周年記念コンサートが市民会館崇城大学ホールにて行われました。本校吹奏楽部は毎年、受付でのパンフレット配布や座席誘導などの運営を手伝っていましたが、今年は「一緒に演奏を」と隊員の方からのお誘いを受け、単独演奏と合同演奏をさせていただきました。また、受付業務に本校からボランティア14名、その中より8名の生徒がステージでの合唱にも参加し、素晴らしい体験をすることができました。音楽隊の方々規律正しい行動に影響され、生徒たちのきびきびと動く姿がとても印象的でした。



試合結果

女子ソフトテニス

平成25年度熊本県高等学校総合体育大会

● 団体戦 3位 ● 個人戦 ベスト8

